

* 馬堀：昔、上総の国の荒馬が小原台に泳ぎついたが、疲労と渴きで倒れた。この時、馬頭観音(馬堀町)のお告げにより、傍らの岩を蹄で掘ると清水が湧き出し渴きを癒し、荒馬が駿馬に変身したという。清水を「蹄の井戸」、この地を「馬堀」と

走水水源地

明治9年(1876)に横須賀造船所に通水したのが始まり。市内唯一の自己水源地。明治35年に建設された煉瓦造貯水池と明治41年に建設された鉄筋コンクリート造浄水池は国登録文化

御所ヶ崎

日本武尊が東征のおり、宿所とされたという説話から御所ヶ崎の名があり、また背後の山に旗を立てたので旗山崎ともいう。

走水神社

祭神は日本武尊、弟橘媛命。古代の古東海道は、走水から海路を用いて房総半島へと進んだ。このため走水は「古事記」や「日本書紀」にも登場する。日本武尊が東夷征伐の際、妃の弟橘媛命が、自らの身を投げて海を鎮めたという伝説が残る。神社の縁起も日本武尊の冠を村人が賜り、御神体としたのが創始とも言われる。走水：舟の早さを「水走る」と表現したことが

県立観音崎公園 (面積 70.4ha 南北約1.1km, 東西約1.5km)

東京湾を防備するための重要拠点であったため、幕末に船見番所や台場が、さらに明治13年から28年にかけて要塞化されて多くの砲台が築かれ、一般人の立入禁止区域になった。昭和30年代に入り、この地域が都市計画公園の指定を受けて昭和50年(1975)に公園化された。

観音崎：旧名佛崎。灯台場所の下に十一面観音を本尊とする観音寺があったため。明治に要塞化により寺は鴨居に移転。

戦没船員の碑：第二次世界大戦や海難事故で犠牲となった約六万余人の船員の慰霊と永遠の平和への願いを込めて昭和44年に設けられた。高さ24mの白磁の大碑壁、碑文石、などがある。

観音崎灯台(日本初の洋式灯台)：明治元年(1868)に起工され、翌2年1月1日に完成。高さ13mのレンガ造りで、フランス人技師ウエルコーによる建造。大正11年の地震にて崩壊、2代目も一年後の関東大震災で崩壊、現在のものは大正14年に再建された3代目。高さ19m、光達距離は37km